

第1回 超・文化祭

～ 未来をつくる ソーシャル・アクションフェス ～

報告書



未来をつくる
ソーシャル
アクションフェス

ロゴデザイン：HAKUHODO DESIGN

開催日

2019年12月22日(日)10:00～17:00

(12月21日(土)14:00～19:00 事前準備・会場設営)

会場

新渡戸文化学園

(東京都中野区本町6-38-1)

～超・文化祭の定義～

持続可能な社会を本気で目指して主体を若者に、大人と共に新しい「文化」を生み出す文化祭

超・文化祭は、大人と子どもと一緒に持続可能な社会をつくることを目指しています。“大人と子どもと一緒に” つくるとは、すべての人が同じ目線で関わるということの意味しています。教える-教わる、提供する-受け取る、というような立ち位置ではなく、同じ目線で、ともに歩み、ともに作り上げていく。そこに上下はなく、お互いの力を最大限に引き出し、足し算ではなく掛け算の関係を目指しています。

いわゆる“文化祭”といえば、学校のルールに従って少ない予算内で行うものですが、超・文化祭では大人の手も存分に活用しながら、社会を動かす取り組みを紹介するものです。今までの文化祭の概念を一新するような、新たな文化祭を作り上げることを目指し、「超・文化祭」は生まれました。

●成果

来場者：一般 79名 中高生 195名 ※チケット購入額から

チケット：一般(大人) 1,000円(100円×10 団体への寄付)
学生 300円(100円×3 団体への寄付)

寄付対象総額：155,300円(投票数の割合等で7団体へ配当)

食 事：80食 マルキッチン
フードロスなし・ゴミなし
(お皿、お箸は新渡戸文化学園の家庭科室より借用)

企業ブース：4ブース

電子チケットの導入：三田国際・歌舞伎チーム
(ゴミを出さないための生徒たちからの発案)

ゴミ：添付の写真のみ(受付の案内は回収・次年度も使用予定)



午前・事例紹介の様子



午後・ブースの様子



夕方・交流会の様子



マルキッチンさんのストーリーのある料理



交流会後の集合写真



国連広報センターの根本所長と生徒たちの交流

●タイムスケジュールと担当

	時間	内容	会場
1.	10:00~10:10	開会式 立ち上げの経緯：奥津 こどもたちと活動する意義：山藤 会場借りた新渡戸学園からひとこと挨拶：平岩	受付 9:30~ 栢之間・笹尾
2.	10:10~10:55	“こども”たちからのこれまでの活動報告 ① 三田国際高等学校 歌舞伎チーム ② 富士見中学高等学校 高校1年生 ③ グローバル 郁文館高等学校 宮崎さん ④ N高等学校 藤井さん ⑤ 都立国際高等学校 金居くん ⑥ 都立武蔵高等学校 島崎さん ⑦ 新渡戸文化学園 オーガニックコットンチーム ※各団体5分 ペチャクチャ5分	2号館7番教室 全体司会：奥津 PC整備：山藤 時間管理：上田 ※時間は2分前に 1鈴、1分前に2 鈴、終了で3鈴
3.	10:55~11:45	三田国際から仕組みの説明 5分 ドネーション（寄付）募集プレゼン ① 都立日野台高等学校 ② 細田学園中学校・高等学校 ③ 都立富士高等学校 ④ 都立南多摩中等教育学校 ⑤ 本命チョコを地球にあげよう(都立西、都立日野台、都立富士など連合チーム) ⑥ 都立南多摩中等教育学校 黒部さん ⑦ 三田国際学園中学校 小池さん ※各団体5分 ペチャクチャ10分 根本所長による講評	
4.	11:45~12:05	おとなプレゼン ① 株式会社オータケ 佐々木さん ② 都立石神井特別支援学校 海老沢先生 ※各団体8分	
5.	12:05~12:20	国連広報センター 根本かおる所長	
6.	12:20~12:30	午前のまとめと午後の紹介 山藤旅聞（当日はカット）	
7.	12:30~13:00	ブース出展者によるブース紹介 ① “SG”チョコプロジェクト 5分 ② 学生ブランド作っちゃおうぜ 5分 ③ みんなの表彰台プロジェクトチーム 5分 ④ メイドインアース 3分 ⑤ 博報堂DYグループ 3分 ⑥ 株式会社寺岡精工×セブン 1分 ⑦ セブン×学生(もぐら) 1分 各団体3分(平均)	
8.	13:00~16:00	昼食およびブース交流・プレゼンの自由見学 ※外部開放 <カフェテリア> マルキッチン 100名分 1プレート500円 12時30分~14時 <ブース>(全10ブース) ・寺岡精工×セブン ・セブン×学生 ・博報堂DYグループ ・本命チョコを地球にあげよう ・学生団体ひゅうが ・学生ブランド作っちゃおうぜ ・みんなの表彰台プロジェクト ・“SG”チョコプロジェクト ・Made in Earth ・都立富士中学校 ・都立富士高等学校 ・都立日野台高等学校 <パネル展示> ・かわいそう、ではなくせない殺処分(中山さん) ・ペットボトルキャップが命を救う(殷さん) <地域の方によるコーラス> ・翼の会 14時30分(B1カフェテリア)	2号館3F および B1 カフェテリア
9.	16:00~17:00	交流会 ファシリテーター：川嶋	
10.	17:00~17:10	まとめ 山藤/奥津/白田	

●ドネーションシステムについて

超・文化祭では、これから活動を進めていく団体に対して投票をすることで、活動を支援する寄付をすることができる仕組みを導入。その一票を寄付するという「行動」も参加者の新しい一歩となる取り組みです。

ドネーションを募集した団体は以下の通り。

タイトル等	チーム名
本命チョコを地球にあげよう	チームボルネオ(都立西、日野台・富士の連合チーム)
古着リサイクルしませんか？	三田国際学園中学校
消費行動を変えることで、私たちの未来をつくる	持続可能な日野の未来みらいをつくる研究チーム(都立日野台高等学校)
再生可能なオーガニックコットン製品を世界へ	細田学園中学校・高等学校
Eco-friendly ～私たちにできること～ チーム名等	都立南多摩中等教育学校
地球のためのフリーマーケット	都立富士高等学校
日本学生の climate strike(気候変動への抗議活動)	都立南多摩中等教育学校

入場料には値段に応じて投票権があります。投票権は 1 口 100 円で、子どもは最低 3 口から、大人は最低 10 口からとなります。投票は、受付で提示された QR コードからアクセス。

●各団体の詳細

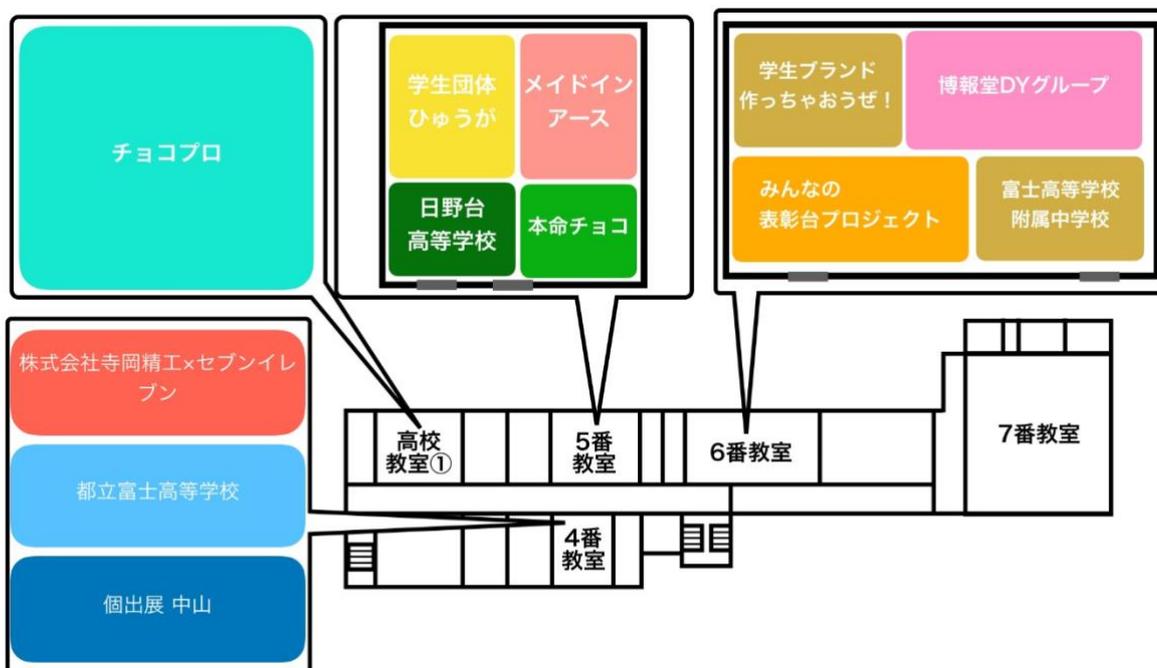
テーマ	本命チョコを地球にあげよう	チーム名等	チームボルネオ
形式	AM プレゼン・ <u>ブース</u> ・ <u>ドネーション</u> ・パネル展示		
紹介文	ボルネオ島スタディーツアーで出会った私たち。住んでいるところも学校も違うけれど、みんな同じ地球を愛しています。そこで、バレンタインには、地球に負荷のかかるプラスチックより、地球を守る包装に変えて、「地球に本命チョコをあげよう！」と立ち上がりました。		
テーマ	古着リサイクルしませんか	チーム名等	小池ひより
形式	AM プレゼン・ <u>ブース</u> ・ <u>ドネーション</u> ・パネル展示		
紹介文	私が目をつけたのは使わない衣服です。日本では大半の洋服はリサイクルされずに捨てられてしまっています。そんな洋服はリサイクルすればさまざまなものに活用でき、発展途上国などにも贈られます。みんなでもっと古着リサイクルの輪を広げていきませんか？具体的にやりたいと思っているのはコインランドリーやクリーニング屋さんで洋服回収ボックスの設置をしたいなと思っています。		
テーマ	地球のためのフリーマーケット	チーム名等	都立富士高等学校
形式	AM プレゼン・ <u>ブース</u> ・ <u>ドネーション</u> ・パネル展示		
紹介文	都立富士高等学校「えこま」では、地球のためのフリーマーケット、“えこま”を開きたいと考えています。環境を意識した商品があること環境認証がいっぱいあることを、より多くの人に知ってもらうために、私達は買い物の新しい場を作りたいです！		
テーマ	Eco-friendly ～私たちにできること～	チーム名等	都立南多摩中等教育学校
形式	AM プレゼン・ <u>ブース</u> ・ <u>ドネーション</u> ・パネル展示		
紹介文	私達は地球に優しい消費を広める活動を本校の文化祭で行いたいと考えています。環境や人権に配慮した商品の提供、企業での取り組みの展示等をして頂ける企業の方と出会えたらと思います。		

テーマ	消費行動を変えることで、私たちの未来をつくる	チーム名等	都立日野台高等学校(持続可能な日野の未来みらいをつくる研究チーム)
形式	AM プレゼン・ <u>ブース</u> ・ <u>ドネーション</u> ・パネル展示		
紹介文	消費行動を変えることで、私たちの未来をつくる 具体的内容: 私たちは消費選択について違和感を持ち、もっと意識してもらえるように、意識した時に消費選択できるようにサステナブルな認証マークの認知と OO 運動の促進のためにイベントを開催します! 小学生などに呼びかけて、ベルマークのようにマークを切り取って持ってきてもらいます! また、ワークショップに参加してもらいます。その数がポイントになり、サステナブルなものに還元されたり、ものづくりワークショップに参加できるようにします。		
テーマ	再生可能なオーガニックコットン製品を世界へ	チーム名等	細田学園中学校・高等学校
形式	AM プレゼン・ <u>ブース</u> ・ <u>ドネーション</u> ・パネル展示		
紹介文	<p>私たちは地球も人も傷つけない土に還るオーガニックコットン製品を作りたいという思いで活動しています。製品の素材は布、ボタン、染料のすべてを天然素材にして、廃棄される時に土に還することで二酸化炭素の排出を減らします。また、化学薬品を使わないことで、環境問題や健康被害を減らしていこうと思いました。</p> <p>活動していく中で現在のファッション業界の現状やそこで働く人々のことを知りました。服が作られ、私たちの手元に届くまでの過程をたくさんの人に広めて、服に対する人々の意識を変えていきたいです。</p>		
テーマ	日本学生の climate strike(気候変動への抗議活動)	チーム名等	黒部 睦
形式	AM プレゼン・ブース・ <u>ドネーション</u> ・パネル展示		
紹介文	スウェーデンの環境活動家であるグレタ・トゥーンベリさんが始めた climate strike が世界中に広まっている中で、日本の学生には学校を休むのはハードルが高くなかなか思いがあっても参加できない。でも、私たちにもやりやすい方法で気候変動の危機を訴えたいと思い、毎週金曜日にロッカーにグレタさん達が持っているようなメッセージボードを貼る活動を始め、今では 60 人近い生徒が貼ってくれている。これが全国の学生に広め、気候変動への学生の思いをより多くの人に広めるために、協力してくれる方を探したい。		
テーマ	ゴミを減らすための取り組み &ドネーションシステム、チケットサイト	チーム名等	チーム歌舞伎(三田国際学園)
形式	<u>AM プレゼン</u> ・ブース・ドネーション・パネル展示		
紹介文	彗星のごとく現れた、様々な活動に取り組んでいる団体です。今回の文化祭で作ったドネーションシステム、チケットサイトのしくみについて紹介をします。		
テーマ	FSC FOREST WEEK2019 とは?	チーム名等	FSC FOREST WEEK
形式	AM プレゼン・ <u>ブース</u> ・ドネーション・パネル展示		
紹介文	みなさんは FSC 認証マークを知っていますか? 今年の夏に FSC 認証の普及のための「FSC FOREST WEEK」というキャンペーンが行われました。みなさんが正しい選択をするためのキーワードになれば幸いです。		

テーマ	SG チョコプロ	チーム名等	湘南学園、捜真女学校
形式	AM プレゼン・ <u>ブース</u> ・ <u>ドネーション</u> ・パネル展示		
紹介文	偶然出会った湘南学園と捜真女学校がフェアトレードチョコレートプロジェクトでコラボ！2校はどのように出会ったのか？児童労働について知ってみよう！		
テーマ	私たちが東京 2020 に向けてできること ～プラスチックのリサイクルから生まれる表彰台～	チーム名等	みんなの表彰台プロジェクト
形式	AM プレゼン・ <u>ブース</u> ・ドネーション・パネル展示		
紹介文	東京 2020 オリンピックで使用される表彰台 100 台を洗剤の空き容器のリサイクルから作るというプロジェクトが行われています。みなさんの手で表彰台を作りませんか？		
テーマ	ペットボトルのボトル to ボトル	チーム名等	セブンイレブン×寺岡精工
形式	AM プレゼン・ <u>ブース</u> ・ドネーション・パネル展示		
紹介文	リサイクルとして回収されたペットボトルの多くは、実はほとんどペットボトルに戻らず、燃やされていることが多いことを知っていますか？その現状を変えるべく、現在少しずつリサイクルボトルから作るペットボトルが作られています。ぜひ、本当の意味でのリサイクルをしてみませんか？		
テーマ	コンビニ×SDGs	チーム名等	セブンイレブン×もぐら
形式	AM プレゼン・ <u>ブース</u> ・ドネーション・パネル展示		
紹介文	コンビニでできる SDGs には、どんなことがあるでしょうか。ブースではレジ袋が有料化されたとき、どんな取り組みができるかや、コンビニができる SDGs の商品などに関する意見を募集し、ディスカッションを行います。		
テーマ	オーガニックコットンを使った学生ブランド！	チーム名等	学生ブランドつくっちゃおうぜ
形式	AM プレゼン・ <u>ブース</u> ・ドネーション・パネル展示		
紹介文	EarthDay2019 をきっかけに、アツい学生とアツい企業によって立ち上がった今の社会を変えるためのプロジェクト。フェアトレード（公正な取引）・児童労働のない畑が作ってくれている 100% オーガニックコットン（無農薬栽培の綿）を使ったイベント用クラス t シャツをはじめとする学生向けファッションアイテムを提供します。服という長く来続けられるものを低価格で買いまくって捨てる”服の消費社会”を見直します。先進国であり服を買う側の”消費者”である私たちは、自分たちの服の本当の姿まで考えることは滅多にありません。安い人件費・不当な取引・化学繊維によって作られた見た目だけの”いい服”ではなく地球上のどの生物にとっても”いい服”に変えていく必要があります。また、私たちと手を繋いでコットン畑に虹をかけてくれる企業も募集中！！		
テーマ	エコな鉛筆のアイデア	チーム名等	都立富士中学校
形式	AM プレゼン・ <u>ブース</u> ・ドネーション・パネル展示		
紹介文	私たちは学校を中心に鉛筆のメリットを広めたり、新しいエコな鉛筆のデザインを考えたりする活動を行っています。		

テーマ	オーガニック Cotton の紹介	チーム名等	Made in Earth
形式	AM プレゼン・ブース・ドネーション・パネル展示		
紹介文	<p>メイド・イン・アースは、純オーガニック Cotton 製品専門のファッションブランドとして1995年より、環境にも素肌にも負荷のない製品づくりをコンセプトにしています。サステナブルで、心地よく、風合いよく、機能性も追求した、ライフスタイルを楽しめるアウターからインナー、寝具、バス、ベビー、布ナプキンなどを製品化しています。ブースではオーガニック Cotton の海外 Cotton 農場視察スライドや糸つむぎ体験、布ナプキンのご紹介をさせていただきます。</p>		
テーマ	かわいそう、ではなくせない殺処分	チーム名等	中山 慧南
形式	AM プレゼン・ブース・ドネーション・ <u>パネル展示</u>		
紹介文	<p>日本では多くの犬や猫が殺処分されている。みんなかわいそう、と思うだけで行動には移さない。かわいそうと思うだけではなにも変わらない…ではどうしたら良いのだろうか。</p>		
テーマ	ペットボトルのキャップが命を救う	チーム名等	殷 弥侖
形式	AM プレゼン・ブース・ドネーション・ <u>パネル展示</u>		
紹介文	<p>日本では1秒間にどのくらいのペットボトルが消費されているでしょう？答えは740本。これらを回収すると、1秒間に約0.86本のワクチンを作れます。BOTTLE CAP BOX を一緒に作ってみませんか？</p>		

●当日のブース会場図(チーム歌舞伎(三田国際学園高等学校)が作成)



●関わってくださったみなさま

Think the Earth
博報堂 DY グループ
マルキッチン
寺岡精工
カルビー

日本環境教育フォーラム
セブン・イレブン ジャパン
オータケ
テラサイクル

未来教育デザイン Confeito
Made in Earth
Textile Exchange
翼の会

新渡戸文化学園小中学校・高等学校
都立武蔵高等学校・附属中学校
三田国際学園高等学校
都立日野台高等学校
細田学園中学・高等学校
都立富士高等学校・附属中学校
捜真女学校高等学部

新渡戸文化学園アフタースクール
文化学園大学杉並中学・高等学校
富士見中学・高等学校
都立南多摩中等教育学校
都立国際高等学校
湘南学園中学校
都立石神井特別支援学校

実行委員コメント

上田壮一@一般社団法人 Think the Earth

学校・学年を超えて集まった子どもたち、大人と子どもの枠を超えて集まった参加者のみなさん、大人の想像を超える子どもたちの熱意とアイデアと実現力。あらゆる意味で「超・文化祭」でした。来年は東京を超えて全国へ！というアイデアも出ました。持続可能な社会に向けてポジティブなエネルギーを発信する場として続けていきたいと思います！

奥津憲人@文化学園大学杉並中学・高等学校

ちょっとした想いが、皆さんのおかげで形になったことを大変うれしく思います。様々な課題もありますが、開催できたことが何より大きな一歩でした。全ての人々が前向きに取り組んだことで、既存の文化祭を遙かに超越した、まさに「超・文化祭」となったと思います。今後も、全ての人とともに未来をつくることを目指し、超・文化祭自体を継続させられるよう、ご協力をお願いいたします。

川嶋直@日本環境教育フォーラム(JEEF)

この実行委員のメンバーは20代30代40代50代そして私60代と多彩。そして10代の中高生が準備段階からこの文化祭の成功のために大きな働きをしてくれました。「一緒に創った」という実感のある文化祭でした。世代、課題、所属（セクター）様々なものを「超える」チャレンジはできたと思います。次年度はさらに「超えた文化祭」作りましょう。

笹尾実和子@一般社団法人 Think the Earth

今回、初開催ということで全体像がなかなか見えない中、全力で協力＆参加してくれた学生さんや企業のみなさんは本気の人たちばかりで、みなさんのパワーに元気と勇気をもらいました！本当にありがとうございます。うまく出来なかったこともたくさんありますが、それをバネにまた来年パワーアップした超・文化祭を開催したいです。

山藤旅聞@新渡戸文化学園

多くの人に無謀と言われて、でも数人の信じる仲間と、「参加したい」と言ってくれた生徒たちや、大人のみなさんの協力により、実現できた超・文化祭でした。ちょっと成功で、ほとんどがもっとできたかも(失敗?)でした。だから、次により良いものが生まれます。失敗は次の成長への可能性！！

白田侑子@新渡戸文化学園

「超」「超える」この言葉は私たちに大きな力をもたらしてくれるように感じます。「超・文化祭」を通して、私自身も今までの自分を超えることができました。第1回目がこうして終わられたのは参加してくださった全てのみなさんの Action のおかげです！運営面ではご迷惑をおかけしてしまったこともありますが、何事もやってみなくては分からないのだということ学ぶことができました。第2回目に向けて、第1回目を超えた「超・文化祭」をみなさんとつくりあげていきたいです！！

